

この秋桜は フィクションです

実在の人物や団体などとは関係ありません。

イメージと異なる表現を含んでいる場合があります。

ここに書かれている内容を真似したりしないようお願い致します。



一部の花騎士達は開花後に通常衣装を着ている設定です。
そのためコスモスのそばかすは描いておりません。

コスモスが酷い目にあったり、
すげべな目にあったりする内容が
含まれております。



もう少し
強くしてみ
て?!

ちゅぽ

ちゅぽ

あぁ...いいね
凄く気持ち良いよ...



ずいぶん
上手に
なったね...♡

ちゅぽ

ちゅぽ

31

31



教えた通りに
やってもらん？

でも
啜えてるだけじゃ
物足りないよ？



そろそろ
出しても
いいかな？



チロチロ〜って♡



そうそう
先っぽと
裏筋もね…



あく♡
イクイク♡

ほらっ！
もっと激しく
しゃぶって！！



あ〜♡
コスモスの
おくちまんこ

気持ち良い♡♡♡

ブクブク
ジュウジュウ



おやおや、

ちやんと飲み込んで
偉い偉い♡

どうして…
いつからこうなって
しまったのだろう？



ジュウジュウ
ん〜♡

応援部隊
コスモス隊

ただいま
着任しました

…と
その前に

長旅
ご苦労様

初めまして
僕が団長の
ルドアードです

まずは
ゆっくり休んで
戦闘に備えて欲しい

副団長を
決めちゃわないとね



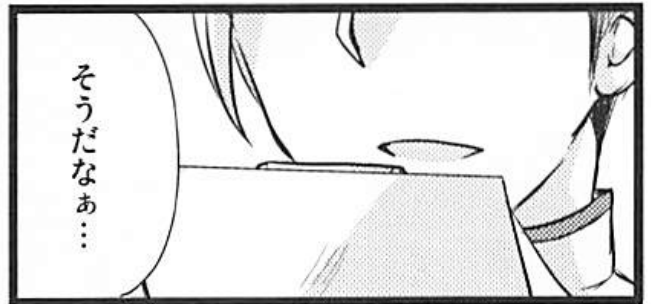
チヨコレートコスモス
お願いできるかな？

えっ？



ん〜…

ふむ…



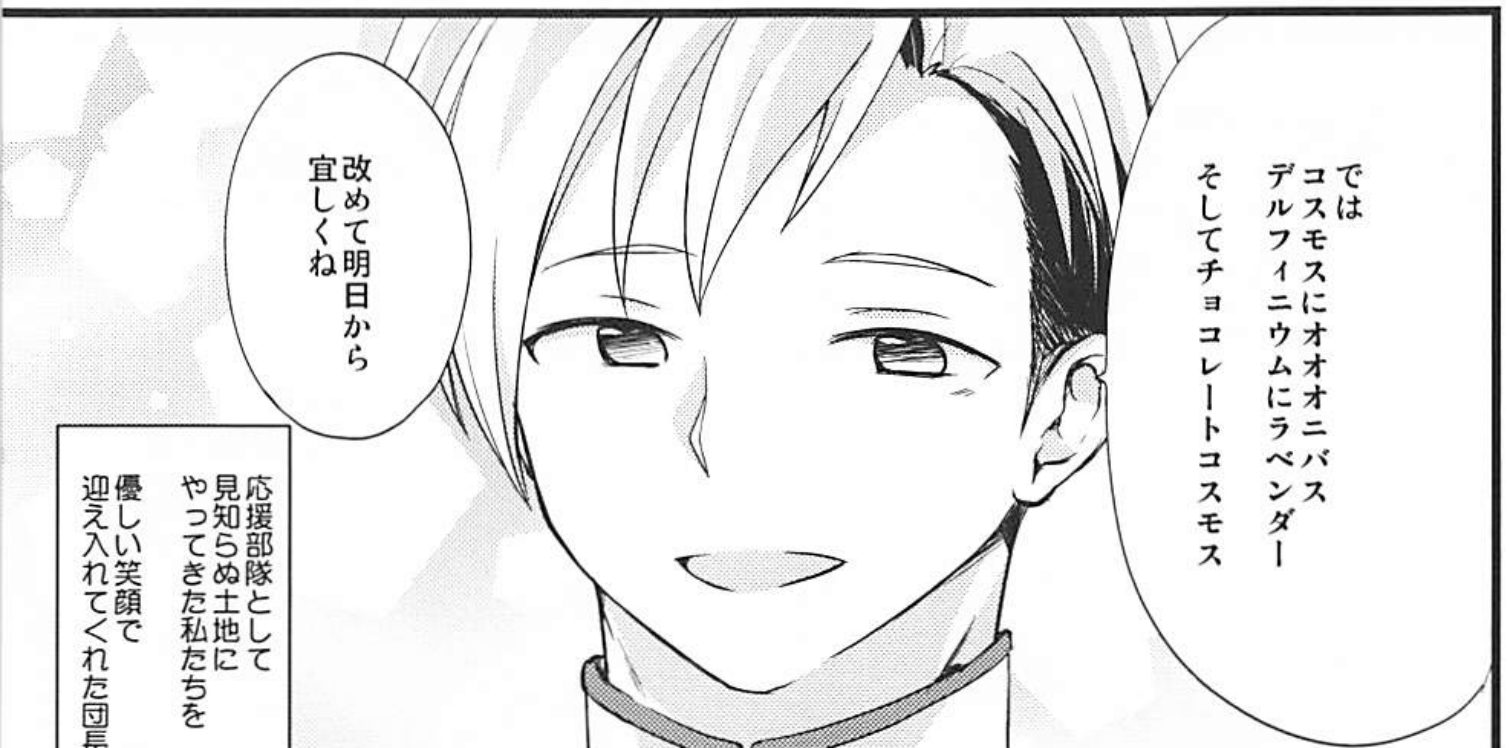
そうだなあ…



でっでも
この隊のリーダーは
コスモスちゃんで…っ

もちろん
コスモスの能力を
甘く見ている訳では
ないよ

でも僕は君に
指揮を任せたい



では
コスモスにオオオニバス
デルファイニウムにラベンダー
そしてチヨコレートコスモス

改めて明日から
宜しくね

応援部隊として
見知らぬ土地に
やってきた私たちが
優しい笑顔で
迎え入れてくれた団長



決して無理は
させず



的確な指示と判断力
無駄のない戦略



わたしたち
花騎士への
配慮も完璧で

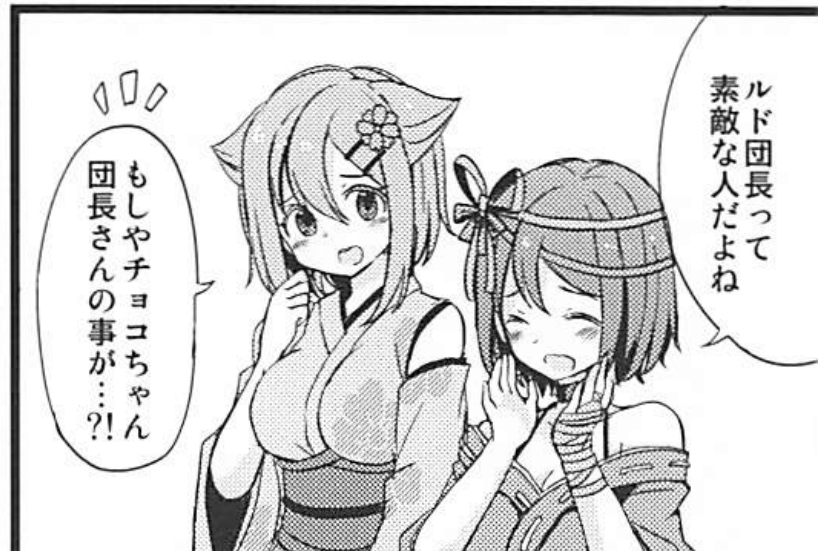


団長としての
信頼を得る事に
その時間は
かからなかった



ただ素敵だなんて
思ったただだから！

ち違うよ
そういうのじゃ
なくて！



ルド団長って
素敵な人だよ

もしやチョコちゃん
団長さんの事が…?!

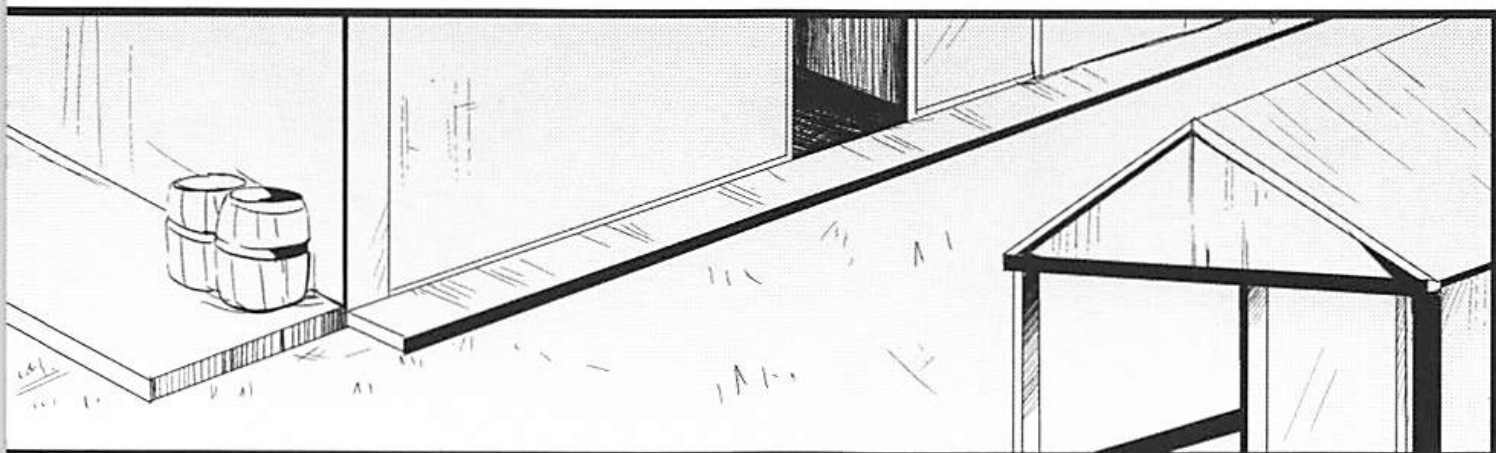
チヨコちゃん
が団長に惹かれ
始めているのは
明らかで…

団長さんち
まんざらじゃ
なさそうですし…

ひよつとして
二人は両思い…!?

ふんふん
ふんふん
甘いキスを…?

影ながら
二人の恋路を
応援しようと思った



あれは…
団長さん?

ほへ?

ふっふっふ♡
誰も居ない場所で
ゆっくりと妄想に
浸りますよ〜♪



だろ？
真面目で
純情そうなのが
良いんだよ

チヨコ
ちゃん？

今回の副団長も
可愛い娘じゃん？

もう一人は：
遠征隊の団長？

でたでた！
純情泣かせ！
もう食ったの？

まだまだ：
他の花騎士達に
懐かれちゃって



悪い男だねえ
騙される娘が
かわいそ！

それはどうも
まあそのうち
頂くとするよ



あゝ
お前モテるもんなあ
性格最悪なのに



一体どういふことか……？



騙される女が
悪いんだよ

騙す……？
チヨコ
ちゃんを？

うっわ
言うねえ？

なくんでこんな男に
あんなに美人な
奥さんと可愛い
娘が居るんだか！



あれ？

まさか
団長さんが
そんな人だった
なんて…



ご忠告
どうも

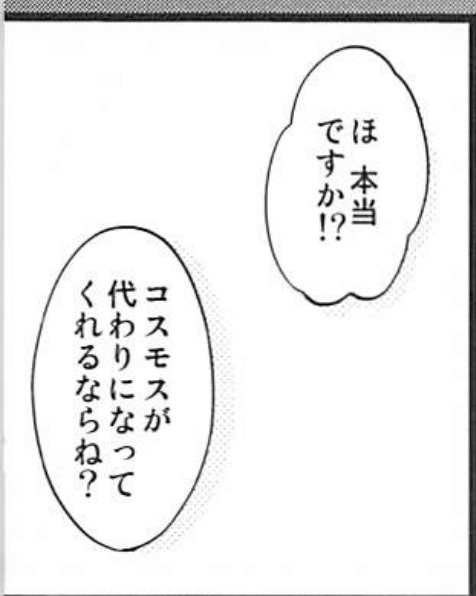
ま
ほどほどに
しておけよ？



どうにかして
やめさせないよ…

…聞かれ
ちゃった？

チヨ…
チヨコちゃんに
変な事しないで
下さい!!



ほ本当
ですか!?

コスモスが
代わりになって
くれるならね？



あはは
震えちゃって
可愛い

コスモスは
友達思いだね

なで
なで

うん いいよ
チヨコレート
コスモスの事は
諦めてあげる

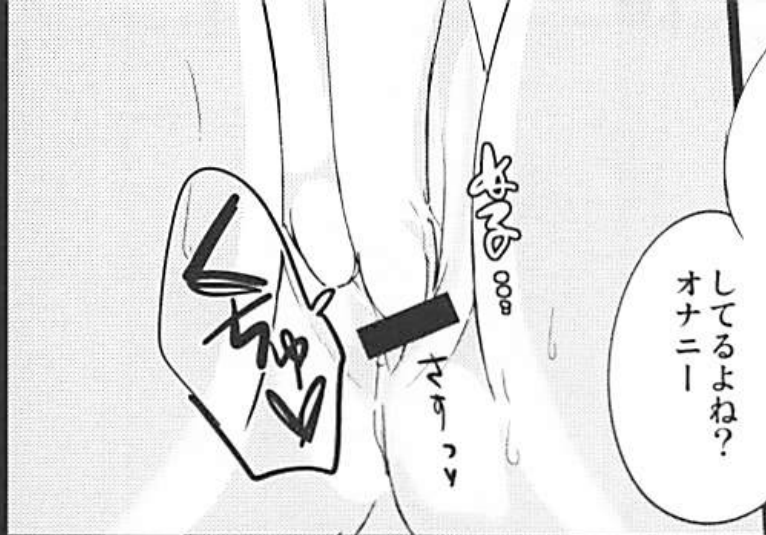
かっ
からかわないで
ください!!



か…
代わりって…
なにを…

またまたあ…
妄想大好きな
コスモスなら

わかる
でしょ…？



いつも自分で
してるみたいに
弄ってごらん?

してるよね?
オナニー



恥ずかしくて
上手くできないの
かな?



手伝って
あげようか♡

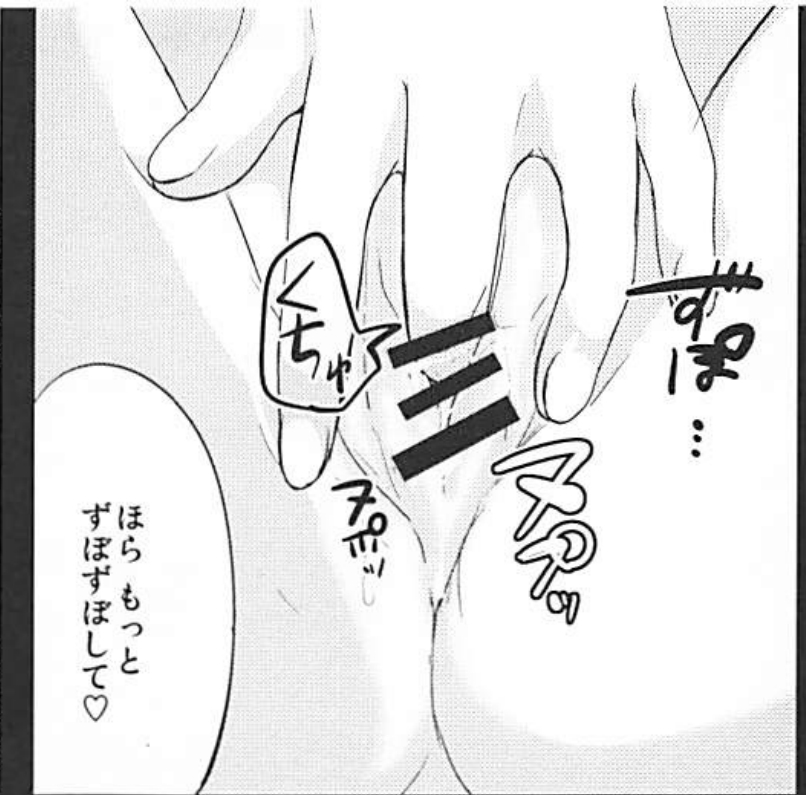


乳首
くりくり♡♡

ちゅぽ♡♡♡



気持ちよく
なってきたでしょ？



ほらもっと
ずぼずぼして♡



こんな格好で
オナニーして
感じるなんて

コスモスは
えっちだねえ♡

♡



団長さんのおちんちん...?

あー

あまだ
イっちゃ
駄目だよ？
せつかなら
おちんちんで
イきたいでしょ？

おちんちん

おちんちん

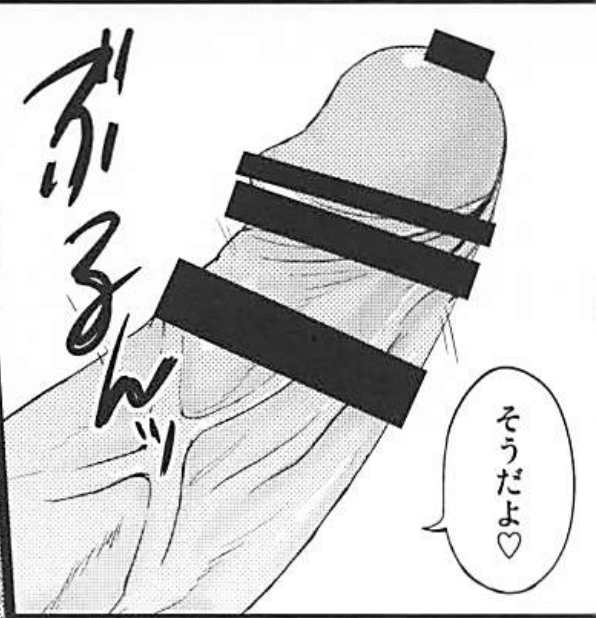
おちんちん

おちんちん



おちんちんで
コスモスのおまんこ
イかせてあげる♡

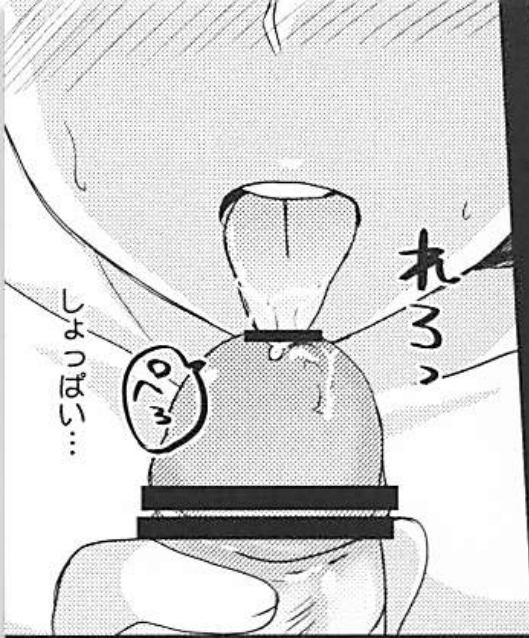
おちんちん
おちんちん



そうだよ♡



上手に舐める
事ができたら...



ちかちか...

れろっ



七ツツ

わきしほ...
びびびびびび...



これが...
これが男の人の...

ドキ
ドキ



そっだ...!

ここれで
良いのかな...?

オマツ

3ツツ



...って

上手に舐めるって
どうやれば良いん
ですかっ?!?

ヒキ
ヒキ

れろ

はっ
はー...

ヒキ



あま

妄想の中で
してきた事を
実践すれば...!?

あーっ
あーっ
あーっ



ちちゃんと
気持ち良くなつて
貰えたのかな...?

上手に舐めて
貰えたから...

きゅん



あはは♡
一生懸命で
可愛いね♡

ありがとう
もう良いよ

へっ!?
かっ可愛い!?

はっ♡
はー♡



ほっ♡

お望みどおり
イかせてあげる♡

ほっ♡

ほっ♡

ほっ♡

ほっ♡

ほっ♡







イカされ
ちやう...っ

こんなの...
こんなのあ...



首筋
噛んじゃ
だめえっ...!!

おちんちんで
イっちやおお♡

じゃあ
ずぼずぼに
変えるね?

あれ?
もしかしてもう
いきそう?



しっぴやい
まっすう

妄想より何倍も
気持ち良すぎる
よおおおっ♡♡♡

いっちゃったね♡
潮まで吹いて
やらしいなあ…

こっちも
射精かせて
もらうね…っ

出すよ…ッ!!

おっちゃん♡

おっちゃん♡

おっちゃん♡

恥ずかしい
のに…

快感の方が
強すぎて…

おっちゃん♡

初めてののに
中出しされちゃった
ね…♡

おっちゃん♡
おっちゃん♡
おっちゃん♡

おっちゃん♡

おっちゃん♡



それからと
いうもの！…



たびたび
呼び出されては
セックスをした



酷い男の筈なのに
嫌がるような事はせず

それどころか
まるで妄想していた事を
見透かされているような
快楽に溺れ

どこか
団長の誘いを
期待している
自分が居た



だけどこれは
チヨコちゃんを
守るために必要な
事なのだ



決して自ら
望んでいる
訳ではないのだ



そう自分に
言い聞かせていた

あの瞬間までは

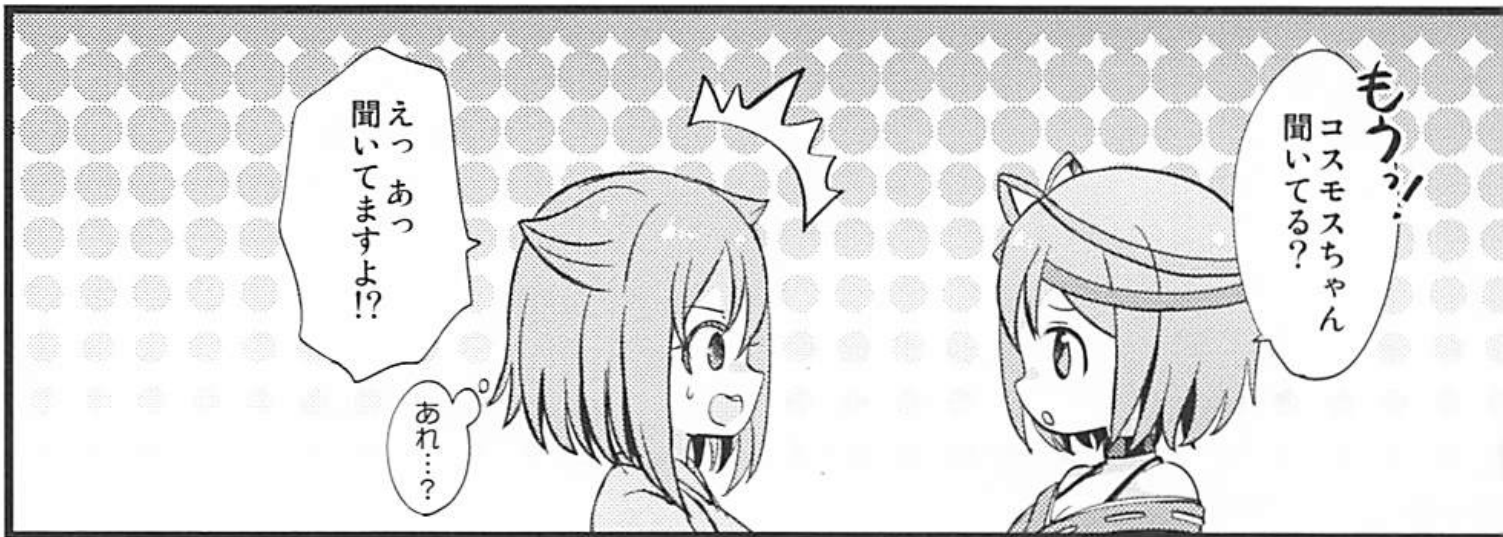


でねっ ルド団長に
写真を見せて
もらったんだけど

は
〜
♡

すっごく
綺麗な人でね
可愛い娘さんも
いるんだよ?

なんだか
理想の夫婦って
感じで:



もう?!
コスモスちゃん
聞いている?

えっ あっ
聞いてますよ!?

あれ...?



もっもうっ!!
コスモスちゃんの
ばかっ!!

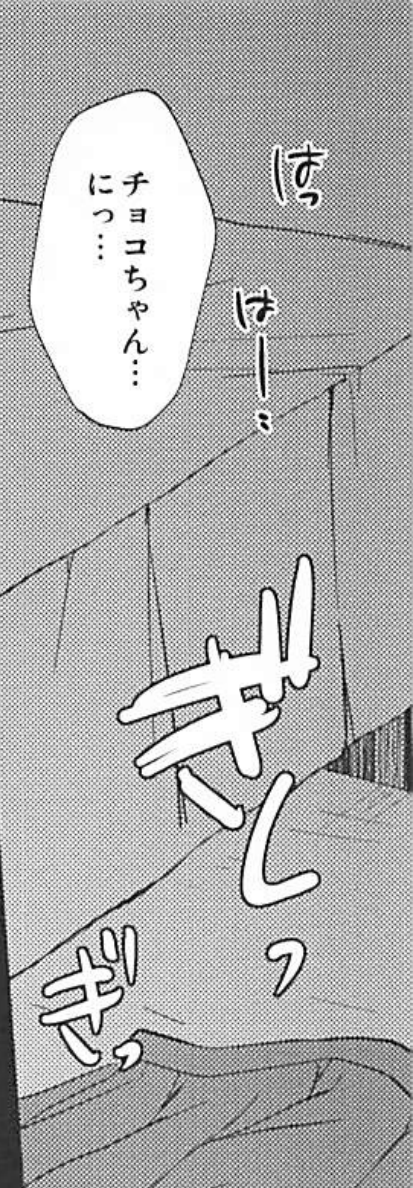
お付き合いを
通り越して結婚
とは大胆ですね!?

結婚の話って
隠すべき事じゃ
なかつたの...?



どうして
チヨコちゃんが
その事を...?

わたしも
あんな素敵な奥さんに
なりたくないあ:



ん？
なんとなく
言っちゃった

はなしたん
です…かっ…？

どうして
結婚してる
こと…っ

チヨコちゃん…
にっ…

はっ
はー…



これでもう
変な事は
出来ないなあ…

ああでも
そうか



！…って



コスモスとの
関係も終わりだね…



チヨコレイト
コスモスに手を
出せないって事は

ギョッ



そんな顔
しなくても...



冗談だよ
ごめんね?

本当はね
理由なんて必要
ないんだよ

この関係は
終わらない…

君が妄想
し続ける限り…ね

素敵なゲスト様の作品です

小説: えみQ 様 (E.M.Q / @EmiQna)

挿絵: ゆきのしろ 様 (Corloth / @ost_los)



——どうして、こうなったのかな。
彼女：コスモスはは目前の屹立した男性器を口に含み、舌を這わせるようにして愛撫を重ねていく。思案に耽りながらも慣れた手つきで竿に触れると、自らの唾液で濡れたソレを擦り、刺激する。

「コスモスちゃん、考え事？」

コスモスの奉仕を受けながら団長は訊く。

「…ん、なんでもない、もつとするね」

いけない、妄想の世界に入るところだった。そう頭の中で考えつつも既に彼女の心は自分の世界に入り込んでいた。

事は少し前に遡る。

コスモスほか、数名の花騎士達は騎士団の異動を命じられる。偶然にも共に異動してきた従姉妹であるチヨコレートコスモスと同じ所属となり、それからはまるで本当の姉妹のように一緒に過ごしていた。

それから暫く経ったある日、コスモスはチヨコレートコスモスから団長への思いを告げられた。それを聞いたコスモスも当然、後押しするつもりであった。

そこまではただの乙女同士の恋バナに過ぎない話。そう、そこまでは良かったのだ。

数日後、コスモスは現在の団長についてとある話を耳にする。

——簡潔に言えば『女癖の悪い』曰く付きの団長である、と。そんな男に自分の大切なチヨコレートコスモスを渡すわけにはいかない。

彼女の花言葉である『恋の思い出』を絶対に汚させたりはしない。コスモスはそう、胸に誓った。

「…でも、直接言うわけにもいかないよね」

その事を本人にストレートに告げたとしても、ただ彼女の思い出を傷つけるだけ。それは自分でも判っていた。

「じゃあ、どうしたら…？」

ふと頭に考えがよぎる。『彼があの子に興味が向かないようにしてしまえば…』と。そして、その方法も。

「…：妄想にしたつて、ちよつと過激すぎるんじゃないかなあ」

だが、迷つてる猶予も、他の考えも、彼女は持ち合わせてはいなかった。

次にコスモスが現実に戻されたのは、喉奥にまで肉棒を咥え込まされた瞬間であった。彼女の口内には到底収まらないようなモノを無理矢理に挿じ込まされ、息苦しさを感ずると共に彼女は自分の置かれていた状況を思い出す。

「んく、ん、ん…っ」

そういう行為を自分がされるのを妄想した事はあった。だがそれはあくまで『自分が好きな人にされる』のが前提であり、何一つ惹かれないこの男にそうされるのは苦痛でしか無かった。

——それでも、チヨコレートコスモスをこの男から守るため、チヨコレートコスモスの思い出を守るため、耐えるしか、そう、自分自身に言い聞かせる。

幸い、自分の中で『淫らな女の子』というものは何度か妄想したことはあった。男を悦ばせるような言動も知っていた。彼女には男を魅了するようなプロポーションを持ち合わせていた。あとは、コスモス自身が実行するだけ。

「あー、コスモスちゃんの口の中気持ちいいわ、このまま出すよ」
言うや否や、コスモスの喉奥に熱い奔流が迸る。

「んぐ、ん……ん、ん……っ……！」

噎せ返るようなオスのニオイを直接喉奥に叩きつけられた。それは普段彼女が妄想していたものを超えるような感覚が、味覚と嗅覚へと訴えられた。吐き出すことも叶わず、喉奥に流し込まれた男の精液を音を鳴らして嚥下していく。

「ん、は、あ……はあ……っ、いっぱい……おいし」

コスモスは演じる。自らの妄想する『淫らな女の子』を。そしてそれを演ずるために、次の自分のしなければいけないことを思い出す。……後には、引けない。

「ね、え……はやく、こっちにも挿れてえ……」

自らベッドの上で下着を脱ぎ捨て、脚を大きく開き、指先で自らの秘処を広げ、男を誘うように甘ったるい声でその先の行為をねだる。それが彼女の知る範囲の中で妄想したエッチな少女の姿であった。

「へえ……自分からそうやって誘っちゃうんだ？いやらしい子なんだね、コスモスちゃんは」

「そう、なのお……私のえっちな、いやらしいおまんこに……あなたのおちんちん、挿れてえ……！」

効果は男には十分なようで、すぐさま彼女をベッドへと押し倒すと射精したばかりでも十分に硬さの残る肉棒をコスモスの中へと挿入する。

——幸い、痛みはほとんど無く、男の憤った屹立をすんな

りと受け入れることができた。

「あ、あ……っ、すごい、ですう……奥まで当たって、私のおまんこ、気持ちいいのお……っ！」

されるがままに膣内を掻き回される。奥まで突き上げられる度に身体中に電気のように快感が走り、コスモスの頭の中は蕩け、自身が妄想したより淫靡な少女へと変貌していく。

「いい、いいのお……っ、おまんこの奥までずんずんってされるの、気持ちいい……っ」

コスモス自身も気付かぬうちに男の背中へと腕を回し抱きつき、脚も腰へと絡めていた。だらしく開いた口から出る言葉は自らの素直な快楽を吐露していく。

「中、きつくて気持ちいいわ……中、出すよ」

「だして、だしてえ……！私のおまんこの奥、せーえきいっぱい出してえ……っ、やあ、ん、あああああ……っ！」

絶頂を迎えると同時に、膣内に熱い精液が入ってくるのを感じ取り、その感覚で再び絶頂を迎える。

「ひあ、あ……あ……んっ……は、あ……」

絶頂の余韻に浸りながら、どうにかゆつくりと思考を取り戻す。彼女の頭の中に後悔はなく、与えられた快楽への悦びばかりが支配していた。
そんな彼女の脳裏に、ふと一つの妄想。

【チヨコちゃんも一緒にしたら

もっと気持ちいいのかなあ？】



後書き的な何か

この度は この秋桜はフィクションですを
手にとって下さり、ありがとうございます。

団長のキャラ設定に悩みましたが
これはこれで良いキャラになったのでは…?

今回、素敵なゲストを2名 お呼びしました。

無理を言ってしまうすみません、そして
ありがとうございます。

ざらりと内容を伝えただけなのに
まるで自分の脳内をのぞいたかのような
すばらしい小説を書いて頂けました。

また、無茶振りをして挿し絵まで
描いて頂く事が出来 本当に感謝しております。

ゆきのしろんは何とマウス塗りなのです!!
信じられますか!? すごい!!

えみQさんのお話の結末も とても良く…
思わずラストを変えてしまいたくなるほどでした。

あれこれ考えているうちに色々なストーリーが
頭の中を巡り、このようなお話となりました。

団長の設定はだいぶ苦戦しました...

ただのクズではなく、このような事を
上手くこなしていくクズ男... 何だかんだで
クズモスが惹かれてしまうような優しさ...

楽しんで頂けたら幸いです。

ご意見、ご感想、お待ちしております。

最後まで読んで下さり、ありがとうございます。

かづらすい



この秋桜はフィクションです

2018.04.22

じゃぶじゃぶマイドアリ！ 5

Honey Knuckle
かずらすい

hny796@gmail.com

@hny_knu

印刷 - 丸正インキ 様

本書は成人向です。未成年者の閲覧・購入を禁じます。
無断転載・複製・アップロード・オークション等は禁止致します。

この物語はフィクションです。

♥ R18 〻 Adult Only

Honey Knuckle
FKG Unofficial FAN BOOK
ADULTS ONLY

このおはなしは
フィクション
です。